

**高齢者を支援するボランティアの立場から  
視聴覚障害者向け放送の状況・技術動向等の変化を踏まえての要望**

老テク研究会事務局長 東京大学先端科学技術研究センター交流研究員 近藤則子

**過去5年間の放送に関連した老テク研究会の主な取り組み**

**1 2008年－2011年 高齢者層への地デジ普及への協力**

総務省の地デジ国民運動推進本部構成員、同デジサポ部会構成員、情報通信審議会地デジ推進委員会構成員として、テレビメーカー企業にはリモコンの簡素化を提言。高齢者、特にひとり暮らしや80才以上の高齢者への聞き取り調査を実施し、地域の実状にそった支援を提言。

自治体や社会福祉協議会、地域の民生委員や福祉団体、シニアボランティアやタレントの友人と連携しながら、高齢者むけのアニメーションを作成し、字幕放送や簡単にリモコンを紹介するシニアむけ地デジセミナーを開催。テレビ、新聞等の取材に協力し、高齢者への支援の必要性、重要性を発信しました。 参考 1) 地デジ紹介アニメ ちでじか小唄・熟年さん

<http://www.youtube.com/watch?v=qBkgBejI5D8>

メロウ倶楽部の若宮正子さん（77）が作成

2) テレビ番組：デジタルテレビライフがやってきた NHK 総合他

3) ネットTV 地デジ東京ぶらり旅（テレビ朝日）に出演、企画に協力  
ガッツ石松氏他、江戸川ふれあいネットの会員たちが多数出演、協力

<http://www.youtube.com/watch?v=YN83W7UvtQ0&feature=channel>

4) 地方でのイベントセミナー 名古屋、山形、大阪、京都、横浜など  
友人のタレントの服部真湖さんに地デジスペシャルボランティアアドバイザーになっていただき、各地をまわりました。仙台では24時間テレビに出演。

5) 東京広尾のお寺でデジタル寺子屋を開催

テレビ端末は三菱電機のテレビをお借りしています。

**2 2011年 夏— 高齢者のための新しい放送技術研究開発に協力**

東京大学、NHK 放送技術研究所に協力して高齢者を対象とした SNS と連動した放送の研究に協力

参考 NHK技研 ユニバーサル放送サービス <http://www.nhk.or.jp/str1/vision1/r3-1.htm>

**3 2011年11月1日 第1回グローバルシニアネットフォーラムをUstライブ中継**

記録 <http://www.freetime.co.jp/seniorforum.html> 協力 NPO ブロードバンドスクール協会  
NHK や KDDI の視聴覚に障害のある人を支援する新技術を企画・展示

NHK 話速変換、 高齢者のための音響、信号処理 らじるらじる（ネットラジオ）他

話速度変換技術はゆっくり聞こえる技術ですが、早くすることもできます。

視覚障害者の友人は、3倍速でもしっかり聞き取れると感心していました。

高齢者のための音響、信号処理は、背景音と切り離して聞き取りやすくする技術

<http://www.nhk.or.jp/str1/vision1/r3-3.htm>

KDDI 新感覚スマートフォン 骨伝導とは違う 聞き取りやすい電話

<http://www.youtube.com/watch?v=6SJaIFSIduE>

## 老テク研究会からの要望

高齢者層へのデジタル放送のメリットをもっと声を大きくして発信しましょう。

字幕放送を知らない、あっても使えない、使いにくい、習いたくても学べる機会がない！

2010年春に、老テク研究会が首都圏や関西のNPOと連携して行なった80才以上の高齢者、約400名への地デジの普及の調査で、字幕放送の利用者は限りなくゼロに近いものでした。

若い世代と同居している高齢者は、若い世代は字幕を必要としないので、自分だけ利用するのは難しい現実もあります。そこで、対策としては防災や防犯をテーマにして

### 1 放送局に字幕ボタン、字幕放送等の利用方法を紹介していただけるよう協力をお願いする

放送局の理解をえて、5月の情報通信月間のような時期に集中して、番組の冒頭などに「この番組は字幕放送を実施しています。字幕ボタンをおしてみてください。副音声では00が利用できます。」など、放送番組の中で利用を呼びかけていただけるようお願いしましょう。若い人たちに高齢者は聞こえにくい、見えにくいことを理解していただけるよう説明しましょう。

### 2 自治体に防災、減災、防犯の高齢者むけICTセミナーを実施していただけるようお願いする

全国の自治体で、教育委員会が寿大学や高砂大学等の高齢者むけの生涯学習講座を実施しています。学ぶ意欲のある、地域活動にも熱心な高齢者が多数集まる機会ですので、こうした講座の中で、新しいテレビの活用・体験する方法を紹介する講座を実施していただけるよう呼びかけてはいかがでしょうか？老テク研究会は東京や京都で、メーカーの方や地元NPOとの協力で実施しました。講師は地域で活躍するシニアネットの講師たちに活躍していただけるようなしくみができると思えばうれしいと思います。実際、我孫子市などでは、シニアネット団体が地デジアドバイザーやサポーターとして活躍されていました。スマートフォンやタブレット端末でも放送が楽しめる時代になっているので、モバイル講習会も実施しやすくなっていると思います。

参考 モバイルシニアネットテキスト公開中 <http://mcis.communitylink.jp/download/>

(助成 独立行政法人福祉医療機構)

### 3 誰もが放送局？の時代へ 高齢者への情報学習支援のしくみをつくりましょう

今、シニアネットの講座では 動画編集が人気です。YouTubeへの動画公開や、Ustreamを使ってイベントやセミナーの配信に高い関心が集まっています。京都の花パソというNPOでは、iPadで合奏したようすをYouTubeで公開して会員たちに大人気です。オンラインで交流するシニアネット、メロウ倶楽部もメロウアカデミーという会員むけセミナーをオンラインで実施しています。高齢者が簡単に情報発信できるメリットは大きく、趣味や交流の楽しさを広げ、医療や福祉に関する知識を深めることで健康増進、地域活動の活性化も期待できます。その一方でスマートフォンで簡単に映像配信が可能な時代になり、情報モラル、マナー、個人情報や著作権保護といった新たな知識が必要になります。高齢者が新しい情報通信技術の利用方法を学べる、使える、楽しめるしくみをつくりましょう。

2012年1月13日